＼丸森町社協／
であい・ふれあい・支え合い

地域支え合いセンター

かわら版
2023
第20号
令和５年７月15日

丸森町社会福祉協議会
マスコットキャラクター
うぐたん

神明住宅会 設立

▲設立総会の様子

６月11日、令和元年東日本台風の被災により建て替えられた町営神明住宅の集会所で、神明住宅会（住民組織）の設立総会が行われました。

振り返ると、入居者の初めての顔合わせが行われたのは、令和３年８月の入居に係る抽選会の日でした。その後、令和４年６月の第１回移転者意見交換会では集会所の内装について意見を出し合い、７月には世話役が選出されました。以降は世話役の皆さんが月に１回程度集まって地域活動等について話し合いを重ね、またその内容が「しんめい便り」によって住民たちに共有されることで、少しずつコミュニティが形成されていきました。（地域づくりでは、意思決定のプロセスを共有することが大切とのこと）

再建された住宅への入居が始まったのは去年の12月。住宅はいくつかの工区に分けて整備され、６月30日に最後の工区への入居が始まりました。被災した方々の住まいの再建の見通しがたった時点で一般募集も行われ、現在は整備した90戸がほぼ埋まっています。

被災前の地域活動をもとに、令和時代の地域のカタチに合わせて考えられた活動計画に沿って、新たなコミュニティの一歩が踏み出されました。

▲役員の皆さんで広報配布の準備

神明北も進んでいます

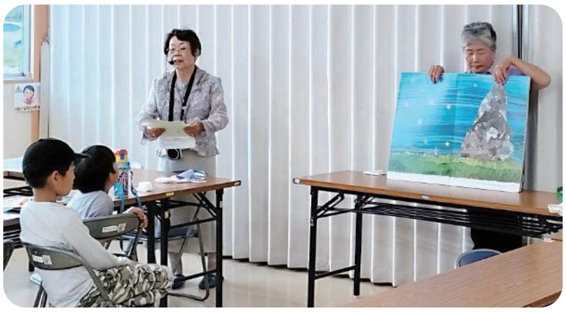
一方、災害公営住宅の神明北集合住宅では、７月14日に入居式が行われました。すでに入居している平屋建て住宅とあわせ、まずは約30世帯でスタート、いずれは50世帯が居住するエリアになる予定です。神明北でも住民の皆さんは毎月のように意見交換会を重ねており、すでに役員候補も決定、今後の地域活動について協議を進めているところです。

まなびの森 移動教室通信

▲町の大谷栄養士による衛生講話

▲実は調理師免許を持ってる曳地集落支援員

今年度も３か月が過ぎ、新たな利用申し込みも一段落。丸森地区と金山地区あわせて約70名の児童生徒も落ち着いて・・・・イヤ、大変元気いっぱい、落ち着いたというより慣れてきました。私たちの活動目的のひとつに、こどもたちが被災によって受けた影響を軽減することがあります。そのためには、複数の信頼できる大人との関わりが有効といわれていることもあり、移動教室には、沢山の大人たちに関わっていただいています。３年前から調理や学習支援に協力して下さっている地域の方々や主任児童委員の皆さんはもちろん、こども食堂のために衛生講話をしてくれる町の栄養士、食事の後に読み聞かせをしてくれる金山更生保護女性会の顧問のおふたり、こどもたちの少し先輩として一緒に遊び学んでくれる宮城大学看護学群の学生さんたち、「こどもたちを支援することは集落の未来を支えること」と丸森婦人会と一緒に調理に関わってくれる丸森地区集落支援員、こどもたちを支える輪はどんどん広がってきています。



▲金山地区では読み聞かせがスタート

▲６月から活動を開始した宮城大学学生ボランティア

神明住宅サロンスタート

▲この日は11名が参加

仮設団地での生活が始まってから実施されてきた集会所（談話室）でのサロン活動。コロナ禍でも休止することなく、屋外ラジオ体操のみの活動になったり、時間を短縮しての開催になったりしました。途中からは丸森地区協議会の協力を得て、移動文庫での本の貸出しも行っていました。仮設住宅からの退去が進み、７月11日を最後に、仮設団地でのサロンは終了しました。そして６月末からは、神明住宅集会所でのサロンがスタートしています。

第20号　2023年７月15日（奇数月15日）発行

丸森町社会福祉協議会　丸森町社協地域支え合いセンター

宮城県伊具郡丸森町字鳥屋55番地１　電　話（0224）**72-2241**　FAX（0224）**87-8990**